平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月30日

上場会社名　株式会社ダスキン　　上場取引所　東 大
コード番号　4665　URL　http://www.duskin.co.jp/corp/index.html
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 山村　輝治
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　(氏名) 鶴見　明久　TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日　平成24年8月10日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	40,635	△5.3	2,526	2.8	3,187	2.0	948	△44.0
24年3月期第1四半期	42,909	△2.4	2,458	△13.0	3,125	△6.3	1,692	96.1

(注)包括利益　25年3月期第1四半期　1,189百万円　(△37.5%)　24年3月期第1四半期　1,903百万円　(98.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	14.75	―
24年3月期第1四半期	26.11	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	193,121	148,208	76.3
24年3月期	197,316	149,604	75.4

(参考) 自己資本　25年3月期第1四半期　147,350百万円　24年3月期　148,781百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	―	0.00	―	40.00	40.00
25年3月期	―				
25年3月期(予想)		20.00	―	20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	85,000	△0.5	4,200	△0.9	5,300	△0.6	2,700	△5.8	42.00
通期	175,000	2.3	9,200	△6.5	11,200	△3.5	6,200	35.3	96.44

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期1Q	66,294,823 株	24年3月期	66,294,823 株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	2,009,389 株	24年3月期	2,009,339 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期1Q	64,285,447 株	24年3月期1Q	64,837,742 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記…… 8
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記…… 8
（５）セグメント情報等…… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間（平成24年４月１日～平成24年６月30日）の我が国経済は、欧州債務問題や電力需給問題等の不透明要因を抱え、東日本大震災の復興需要等による回復傾向が見られるものの、力強さを欠く状況が続きました。

このような環境の中、当社は「仕組みの改革」に主眼を置き、且つ、それをスピーディーに行うことを基本方針とする中期経営方針に沿った各種の取り組みを開始したところでありますが、当第１四半期の業績につきましては、連結売上高は406億35百万円（前年同期比5.3％減）、連結営業利益は25億26百万円（前年同期比2.8％増）、連結経常利益は31億87百万円（前年同期比2.0％増）となりました。連結四半期純利益につきましては、投資有価証券評価損10億19百万円を計上したこと等により、前年同期に比べて44.0％減少し９億48百万円となりました。

＜セグメント毎の状況＞

①クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場においては、フロアモップ「ＬａＬａ」と置き型式掃除機「ダストクリーナー」を使って、気付いたときに手軽に行う“新おそうじスタイル”を、ショッピングモール等でのデモンストレーションを通じて浸透させることに注力しました。ダストクリーナーの売上は順調に増加し、フロアモップのレンタルも順調に推移しましたが、ハンディモップ売上は減少し、また、「ＬａＬａ」の販売初年度であった前期と比べ付属品等の売上が大幅に減少したこともあり、モップ商品全体の売上は前年同期を下回る結果となりました。エアコンクリーニングサービス、家事おてつだいサービス等の役務提供サービスは引続き順調に受注件数が増加し、前年同期の売上を上回りましたが、家庭市場全体の売上高は前年同期を下回りました。

事業所市場においては、企業の経費節減意識は依然強く、引続き厳しい状況が続いており、全体の売上高は前年同期を下回りました。しかしながら、清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業の成果が見え始め、主力であるマット商品売上の減少幅は縮小しました。また、役務提供サービスは、施設管理サービスの売上は減少したものの、その他のサービスは順調に推移し、前年同期並みの売上となりました。

クリーンケアグループのその他の事業につきましては、スキンケア関連化粧品の販売が好調に推移したヘルス＆ビューティ事業、介護用品レンタルが好調に推移したレントオール事業は前年同期の売上高を上回りました。高齢者向け支援サービスのホームインステッド事業は、利用者数は増加したものの単価が減少、ユニフォームサービス事業は、ユニフォームのクリーニングが堅実に推移したものの、両事業とも前年同期並みの売上高に留まりました。

以上の結果、クリーンケアグループ全体の売上高は271億12百万円（前年同期比4.8％減）、営業利益は35億25百万円（前年同期比１百万円の減）となりました。

なお、支店で営業活動に従事する個人事業主の独立性をより高めるために、契約形態を変更したことによる当第１四半期の減収影響が約９億円あります。従いまして、前年同期と同条件で比較した場合、売上高は実質的には約４億円（1.5％）の減収となります。この契約形態の変更による営業利益への影響はありません。

②フードグループ

ミスタードーナツ事業は、多くのお客様から長年支持していただいている定番商品のおいしさ向上に注力すると共に、過去に人気のあった「エンゼルテディパン」や「米粉ドーナツ」「オールドファッション抹茶」等の復刻、夏用の商品として“生姜”を使った「ジンジャーリング」の発売、更には、母の日に合わせた「お絵かきドーナツ」やオリンピックイヤーにちなんだ英国発祥の「スコーン」の発売等、話題性のある商品展開を行いました。プロモーション面では、ミスタードーナツ誕生の地であるボストンへの日本航空株式会社東京発直行便就航を記念した同社との共同キャンペーン、お客様とのコミュニケーションツールの一つとして、日本でも利用者が増加し続けているFacebookにミスタードーナツ公式ページ開設等、新しい取り組みも実施しました。また、出店におきましても、５月22日の東京スカイツリー開業にあわせてオープンした大型ショッピングモール「東京ソラマチ」に、ミスタードーナツオリジナルキャラクターである「ポン・デ・ライオン」をテーマにした通称「ポン・デ・ライオンパーク」を日本唯一の店として出店する新たな試みにチャレンジしました。これらの積極的な施策にも関わらず、お客様数の回復にはつながらず、売上高は前年同期と比べ減少しました。一方、利益面におきましては、焼きドーナツの展開を開始した前年同期と比べて、販売促進費用が減少したこと等により増益となりました。

フードグループのその他の事業につきましては、カフェデュモンド事業、かつアンドかつ事業、スティック・スイーツ・ファクトリー事業、海鮮丼チェーンを運営するどん事業は、不採算店のクローズに伴う店舗数の減少等により、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、フードグループ全体の売上高は108億91百万円（前年同期比7.8％減）、営業利益は４億31百万円（前年同期比10.2％増）となりました。

③その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、新規契約件数は前年同期を上回りましたが、既存のお客様との契約が減額になったことを主因として、売上高は前年同期を下回りました。ダスキン共益株式会社で展開しておりますリース事業は、ミスタードーナツ店舗へのシステム機器入れ替えに伴って売上高は前年同期を上回りました。

海外のダストコントロール事業及びミスタードーナツ事業は、両事業とも既存展開地域においては順調に推移しており、前年同期の売上高を上回りました。

以上の結果、その他の売上高は26億31百万円（前年同期比0.5百万円の減）、営業利益は１億85百万円（前年同期比40.2％減）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第１四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,931億21百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して41億94百万円減少しております。その要因は、短期資金運用等の有価証券が25億88百万円、投資有価証券が21億16百万円減少したこと等であります。

負債残高は449億13百万円となり、前期末と比較して27億98百万円減少しております。その要因は、支払手形及び買掛金が５億62百万円増加したことに対し、賞与引当金が17億89百万円、未払法人税等が15億74百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,482億８百万円となり、前期末と比較して13億96百万円減少しております。その要因は、四半期純利益９億48百万円と剰余金の配当25億71百万円との差引により利益剰余金が16億23百万円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成25年３月期（平成24年４月１日～平成25年３月31日）通期及び第２四半期累計期間の業績予想につきましては、平成24年５月15日に公表した従来の予想を変更しておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第１四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成24年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,600	14,859
受取手形及び売掛金	10,891	10,613
リース投資資産	1,850	1,881
有価証券	18,153	15,564
商品及び製品	6,345	7,436
仕掛品	195	147
原材料及び貯蔵品	1,456	1,822
繰延税金資産	2,306	1,625
その他	2,675	2,943
貸倒引当金	△72	△101
流動資産合計	59,401	56,794
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,283	41,567
減価償却累計額	△23,361	△23,549
建物及び構築物（純額）	17,922	18,018
機械装置及び運搬具	21,742	23,050
減価償却累計額	△15,507	△16,655
機械装置及び運搬具（純額）	6,235	6,394
土地	23,818	24,092
建設仮勘定	268	41
その他	11,881	12,575
減価償却累計額	△8,317	△8,500
その他（純額）	3,563	4,074
有形固定資産合計	51,809	52,622
無形固定資産		
のれん	200	608
その他	8,926	8,762
無形固定資産合計	9,126	9,371
投資その他の資産		
投資有価証券	60,816	58,700
長期貸付金	45	39
繰延税金資産	6,998	6,666
差入保証金	7,876	7,690
その他	1,454	1,436
貸倒引当金	△212	△199
投資その他の資産合計	76,979	74,333
固定資産合計	137,915	136,327
資産合計	197,316	193,121

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (平成24年６月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,616	7,178
1年内返済予定の長期借入金	94	99
未払法人税等	1,902	327
賞与引当金	3,422	1,633
ポイント引当金	449	422
資産除去債務	253	－
未払金	6,669	6,142
レンタル品預り保証金	10,634	10,523
その他	4,281	4,625
流動負債合計	34,323	30,953
固定負債		
長期借入金	151	163
退職給付引当金	11,965	12,326
債務保証損失引当金	60	54
資産除去債務	355	587
長期預り保証金	791	787
長期未払金	62	37
その他	2	2
固定負債合計	13,388	13,959
負債合計	47,711	44,913
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,337	11,337
利益剰余金	131,591	129,968
自己株式	△3,176	△3,176
株主資本合計	151,104	149,481
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,793	△1,673
繰延ヘッジ損益	3	△2
為替換算調整勘定	△533	△454
その他の包括利益累計額合計	△2,323	△2,130
少数株主持分	823	857
純資産合計	149,604	148,208
負債純資産合計	197,316	193,121

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）
売上高	42,909	40,635
売上原価	23,149	22,537
売上総利益	19,760	18,098
販売費及び一般管理費	17,301	15,571
営業利益	2,458	2,526
営業外収益		
受取利息	224	233
受取配当金	125	134
設備賃貸料	37	35
受取手数料	54	55
負ののれん償却額	17	―
持分法による投資利益	29	12
営業権譲渡益	72	131
雑収入	145	116
営業外収益合計	706	719
営業外費用		
支払利息	1	1
為替差損	9	17
雑損失	27	39
営業外費用合計	39	58
経常利益	3,125	3,187
特別利益		
固定資産売却益	―	5
投資有価証券売却益	―	55
その他	0	8
特別利益合計	0	69
特別損失		
固定資産売却損	1	7
固定資産廃棄損	26	40
投資有価証券評価損	0	1,019
災害による損失	115	―
その他	15	4
特別損失合計	157	1,072
税金等調整前四半期純利益	2,969	2,185
法人税等	1,214	1,208
少数株主損益調整前四半期純利益	1,754	976
少数株主利益	62	28
四半期純利益	1,692	948

(四半期連結包括利益計算書)
(第１四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第１四半期連結累計期間 (自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日)	当第１四半期連結累計期間 (自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,754	976
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	108	120
繰延ヘッジ損益	△8	△6
為替換算調整勘定	36	50
持分法適用会社に対する持分相当額	12	48
その他の包括利益合計	148	213
四半期包括利益	1,903	1,189
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,826	1,141
少数株主に係る四半期包括利益	76	48

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ 前第１四半期連結累計期間（自 平成23年４月１日 至 平成23年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	28,469	11,807	2,632	42,909	―	42,909
セグメント間の内部売上高又は振替高	217	1	601	820	(820)	―
計	28,686	11,809	3,233	43,729	(820)	42,909
セグメント利益	3,527	391	310	4,228	(1,770)	2,458

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額1,770百万円には、セグメント間取引消去14百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用1,756百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当第１四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第１四半期連結累計期間の償却額及び当第１四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第１四半期連結累計期間償却額	31	0	0	―	33
当第１四半期連結会計期間末残高（注）	282	10	12	―	304

（注）当第１四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高125百万円（クリーングループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高111百万円（クリーングループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	27,112	10,891	2,631	40,635	―	40,635
セグメント間の内部売上高又は振替高	256	3	579	839	(839)	―
計	27,369	10,894	3,211	41,475	(839)	40,635
セグメント利益	3,525	431	185	4,142	(1,615)	2,526

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額1,615百万円には、セグメント間取引消去３百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用1,611百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．第１四半期連結会計期間より、従来の「クリーングループ」について「クリーンケアグループ」へ名称変更いたしました。
なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年５月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、404百万円ののれんを計上しております。

なお、のれんの当第１四半期連結累計期間の償却額及び当第１四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第１四半期連結累計期間償却額	27	0	－	―	27
当第１四半期連結会計期間末残高（注）	204	404	－	―	608

（注）当第１四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年５月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高404百万円（フードグループ）、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高62百万円（クリーンケアグループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高109百万円（クリーンケアグループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。